

選 挙 の 概 況

1 まえがき

第50回衆議院議員総選挙は、令和6年10月9日石破内閣のもと衆議院の解散により、同月15日に公示され、同月27日に投開票が行われた。解散から総選挙までの期間は18日間という前回第49回総選挙の17日間に次ぐ戦後2番目の短期決戦の選挙であった。

この選挙は「政治とカネ」の問題をはじめ、物価高対策や安全保障政策の在り方などが争点となり、国民の関心も高く、選挙の結果、自由民主党、公明党は公示前の279議席を大幅に減らす215議席にとどまり、過半数（233議席）を割り込むこととなった。

一方で、投票率（小選挙区選挙）の全国平均は53.85%で戦後3番目に低く、本県では55.42%で戦後最低だった。

前述のとおり解散から総選挙までの日程が非常に短かったことから、本県及び各市町村選挙管理委員会では会場確保をはじめ、ポスター掲示場の設置など難しい管理執行を求められたが、各選挙管理委員会の懸命な取り組みのもと県全体としては大きな混乱もなく円滑な執行がなされた。

2 管理執行

(1) 候補者及び当選人について

大分県の小選挙区では、第1区は、自由民主党、参政党、日本共産党から各1名、本人届出1名の計4名の届出があり、本人届出の前職の候補者が当選した。第2区は、立憲民主党、自由民主党から各1名、本人届出1名の計3名の届出があり、本人届出の候補者が初当選した。第3区は、立憲民主党、自由民主党、日本共産党から各1名の計3名の届出があり、自由民主党前職の候補者が当選した。

比例代表の九州選挙区では9政党が届出をした。当選人の決定は、各名簿届出政党等の得票数に応じて当選人の数を配分するドント式で行われ、日本共産党1名、れいわ新選組1名、立憲民主党4名、国民民主党2名、日本維新の会1名、自由民主党7名、公明党3名、参政党1名の計20名が当選人と決定された。

(2) 投票状況について

① 投票用紙

小選挙区、比例代表それぞれ、1,009,000枚を印刷し、小選挙区があさぎ色の用紙に、比例代表がピンク色の用紙に、ともに黒刷りとし、規格は縦13cm、横9cmの縦長とした。最高裁判所裁判官国民審査の投票用紙は、1,009,000枚を印刷し、縦9.1cm、横15.2cmの横長で、うぐいす色の用紙に黒刷りとした。

また、点字器使用者の便宜を図るため、紙質を厚くした点字投票用紙も小選挙区、比例代表、国民審査それぞれ3,700枚印刷した。

なお、総務省が作成した在外投票用紙を在外選挙人名簿登録者数に応じて各市町村へ配布した。

② 投票所数

投票所は、県内で592箇所あり、そのうち投票所の閉鎖時刻を繰り上げたのは439箇所、その内訳は、1時間の繰り上げが200箇所、2時間の繰り上げが186箇所、3時間の繰り上げが43箇所、4時間の繰り上げが10箇所であった。

③ 投票率

全国の投票率は小選挙区で男性54.30%、女性53.42%の平均53.85%、比例代表では男性54.30%、女性53.42%の平均53.84%であった。大分県の投票率は、小選挙区で男性55.56%、女性

55.30%の平均55.42%、比例代表では男性55.55%、女性55.29%の平均55.41%であり、小選挙区、比例代表ともに九州では2番目、全国では17番目に高かった。

在外の全国の投票率は、小選挙区18.11%、比例代表では18.28%で、大分県は小選挙区9.89%、比例代表では10.32%であった。

④ 無効投票

無効投票は、小選挙区については投票総数515,021票のうち12,137票で無効投票率2.36%、比例代表については投票総数514,893票のうち19,248票で無効投票率3.74%となり、小選挙区では全国平均の2.99%を下回り、比例代表では全国平均の2.47%を上回った。

(3) 開票状況について

① 開票状況

選挙期日当日、各市町村の開票区ごとに即日開票され、ほとんどの市町村で予定どおりに開票作業が終了したが、大分市の比例代表では予定を2時間以上超過した。

② 開票速報

投開票の速報の受理、集計及び記録を行うため、県庁舎本館2階正庁ホールに速報本部を設置した。今回、報道機関向けの発表は全てEメールにより行ったため、発表会場は設けなかった。速報に携わった要員は、32人であった。

(4) 選挙会及び当選証書付与について

衆議院小選挙区選出議員選挙選挙会は10月30日（水）に、第1区が午前9時30分から、第2区が午前10時から、第3区が午前10時30分から、衆議院比例代表選出議員選挙大分県選挙分会は同日午前11時から、最高裁判所裁判官国民審査大分県審査分会は同日午後2時から県選挙管理委員会室においてそれぞれ開催された。

当選証書の付与は、同日午後1時から県庁舎本館議会棟第6委員会室で行った。

(5) 選挙公営について

① 政見放送

政見放送は候補者届出政党が行い、小選挙区選出議員選挙の政見放送は、テレビではNHKが10月23日、24日の2回、OABが23日、OBSが16日、TOSが19日に各1回の計5回、ラジオでは10月23日、24日にNHKにおいて計2回放送された。政見放送の申込政党は4政党であった。

② 選挙公報

小選挙区、比例代表ともに新聞紙大（ブランケット版）の用紙に印刷し、10月17日と18日に各市町村に発送した。小選挙区は全候補者の10人（第1区4人、第2区3人、第3区3人）について選挙区ごとに、比例代表は9政党分を4ページにわたって掲載した。

③ ポスター掲示場

ポスター掲示場の設置数は3,689箇所、ポスター掲示面の区画数は、第1区が8区画、第2区及び第3区が6区画であった。

3 明るい選挙推進運動について

前回選挙では、新型コロナウイルス感染症の影響により振興局単位での街頭啓発は実施しなかったが、今回は、各振興局において街頭啓発を計19か所で行った。

また、新聞、テレビ、ラジオ、SNS、広告塔、横断幕、広報車等を通じて、投票方法の周知や投票参加の呼びかけを行った。特に若年層に対する啓発に重点を置き、SNSを利用した啓発を行った。